

【三鷹市】

校務DX計画

令和6年9月に文部科学省が実施した「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」における三鷹市の自己点検結果は「学校設置者向け」の内容が600点満点中450点(東京都平均333.4点)、「学校向け」の内容が900点満点中561.5点(東京都平均434.5点)であった。

これらの自己点検の結果を踏まえて、三鷹市では以下の取り組みや検討を行い、校務DXを進めていく。

1 FAX・押印の見直しについて

FAXの使用や押印・署名が必要な書類の項目については、「FAXを使用している」「押印が必要な書類がある」などの結果が目立った。

これらの見直し・改善に向けてはFAXや書類などについて、現状の実態把握に努めるとともに、やり取りを行う相手方の協力を得ながら、実施に向けて進めていく。

2 教員と保護者間の連絡等のクラウドサービスの活用について

教員と保護者間の連絡等のクラウドサービスの活用については、児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡や学校から保護者へのお便りの一斉配信ではクラウドサービスの活用が進んでいるが、保護者からの学校への提出資料の受付、保護者への調査・アンケート及び日程調整については、学校ごとのばらつきがあった。

今後は、保護者からの提出資料の受付、保護者へのアンケート及び日程調整においても、対応の検討を行い、クラウドサービスの活用を進めていく。

3 教員と児童生徒間のクラウドサービスの活用について

教員と児童生徒間のクラウドサービスの活用では、児童生徒が学習用タブレット端末を毎日持ち帰り、家庭で利用できるようにしているなど、学習用タブレット端末を活用した取組みが進んでいる結果となった。授業中の小テスト等でのCBT（コンピュータベースドテスト）の活用については、学校ごとに取組状況が異なるため、学校間での取組みの共有などを行い、今後の活用を広めていく必要がある。

4 学校内のクラウドサービスの活用について

学校内のクラウドサービスの活用については、職員会議等のペーパーレス化や教職員間の情報共有などで活用が進んでいるが、学校内外の行事日程等の調整や教職員へ

の調査・アンケート等へのクラウドサービスの活用は学校ごとのばらつきが表れているため、学校間での取組みの共有などを行い、更なる活用を促したい。

5 校務支援システムの活用と次世代のシステムの導入に向けた検討について

三鷹市では統合型校務支援システムを活用し、学籍、成績、保健情報等の管理を行うとともに、不必要な手入力作業等を極力削減しながら、教職員の校務事務の効率化を図っている。今後のシステム更新においては、次世代型の校務支援システムの導入も含め、検討を進めていく。